

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	1471400380
法人名	社会福祉法人 静友会
事業所名	バーデンライフ山北
訪問調査日	平成20年1月31日
評価確定日	平成20年2月25日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 2月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	第1471400380号
法人名	社会福祉法人 静友会
事業所名	バーデンライフ山北
所在地	神奈川県足柄上郡山北町山北202 (電 話) 0465-79-1113

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 1日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人		
職員数	10人	常勤 3人	非常勤 7人	常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	(木造 枠組壁工法) 造り
	2 階建ての (2) 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000 円		その他の経費 (月額)	43,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 ・ 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円	
	夕食	450 円	おやつ	50 円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要 (1月31日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低 68 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおり医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バーデンライフ山北は社会福祉法人静友会が運営するグループホームです。同法人は有料老人ホームの他、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、通所介護事業所(デイサービス)を有し、地域に密着した高齢者支援を展開しています。JR御殿場線山北駅から徒歩10分ほどに位置し、外観デザインは地域の街並みや雰囲気にもマッチしています。地域との交流活動も活発で「ゆとり」と「安心」を提供する地域福祉の発信拠点として、地域重視を前面に打ち出しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 入浴を楽しむことのできる支援では、希望があれば毎日入浴できるようになり、対応の改善がみられます。計画的な研修においては未実施ですが個々の研修機会はあるので、年間の研修計画を策定することで、スキルアップの効果が期待されます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を実施しており、その目的や効果が理解されています。これから取り組みが必要なことについて、計画的に実施されることが期待されます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年間の事業報告や外部評価の取り組みに関する報告がされています。また、行事を視察していただき、貴重な意見が出されています。今後は、ヒヤリハット事例や職員研修なども推進会議に報告することでさらにホームの透明度が上がっていくことが期待されます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族にお便りで近況報告を月に1回実施しており、不安が無いように努めています。また行事への家族の参加もあり、貴重な意見を聞く機会になっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に密着した運営を目指しており、着実に実施されています。自治会への参加、地元保育園、小学校との交流も行われ、お年寄りの楽しみの一つになっています。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は玄関ホールと居間の目立つところに掲示しており、地域との結びつきの重視について触れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に2回実施している職員会議では理念に触れ、基本的な考え方を共有した上ですすめている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや納涼祭などの自治会行事に参加・交流している。また、地元の保育園のクリスマス会や運動会に呼ばれ、小学校の総合学習では30名程の子供達が訪問し、お年寄りと交流し楽しんだ。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全職員が自己評価に取り組み、評価結果を話し合い、改善に向け話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年4月より運営推進会議をスタートしている。家族代表、自治会長、民生委員、行政の方に参加していただき、事業報告や評価結果の取り組み状況を話し、行事を視察していただき意見をいただいている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、入居者状況などの実績報告を行っている。近隣行政の主催する認知症の方と過ごすキャンプでは連携・交流を重ねている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「おたより」を担当者のコメントを付けて発送している。また、金銭出納、領収証の添付を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際、ご意見を聞いたり、行事案内のはがきの「家族のご意見」欄を設け、返信してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には慣れただけで時間をかけて支援をしている。新しい職員は、利用者にスムーズに溶け込めるよう一定の期間をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は必要な時に随時実施し、外部研修は案内を回覧して募集している。また、新人教育では7日程度の研修期間を設け、OJTなどの研修をしている。	○	研修の年間計画をたてて実施することで、効率よく一層の職員の資質の向上が期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修やシニアキャンプを利用して、お互いに交流をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学では、家族と連絡を取り合って本人がスムーズに打ち解けるように配慮している。また、お試し利用を提案したり、家族にできるだけ長くいてもらったりして、馴染んでいただけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言葉使いでは、信頼が増してくれば、親しみやすい言葉を使う場合があるが、対話では敬意を払い共感、意見傾聴、学ぶ姿勢を心がけている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報提供、ホームでの暮らしの中から生まれる利用者との会話、表情、動き等から希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当制をとっており、担当の職員とケアマネジャーが中心となり連携を取りつつ、職員全員の意見、家族とも話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行っている。現在までのところ定期以外での計画の見直しをした事例はないが、必要に応じてミニカンファレンスを随時行うことにより、現状に即した介護計画の見直しをする体制は整えられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと居宅介護支援センターを併設している。デイサービス施設内の温泉入浴を実施したり、レクリエーションを合同で行うこともある。居宅介護支援センターで利用者家族の相談に応じることもある。また、家族の状況により、協力医療機関以外の受診時の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所と協力医療機関との連携は保たれている。入居前からのかかりつけ医の受診も柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」については今後の検討事案と考えている。現在のところは、重度化した場合の事業所の「できること、できないこと」を考えながら本人、家族、かかりつけ医、事業所すべてが納得する方針を探りつつそれぞれ対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は明るく笑顔で利用者に接している。家族のように打ち解けてとの考えから少しでも感じた感じの声かけを行っているが、馴れ馴れしくならないよう常に注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日のスケジュールはあるが、一つ一つの行動については本人の希望を確認するため声かけを行い、するか、しないかは本人の意志決定に任せている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能が低下している方が増えたため、現在は食材の下ごしらえをできる範囲で行ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み会話を楽しみながらさりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は決めているが希望すれば毎日、また夜間でも対応している。入浴拒否のある方も一人ひとりに合わせた言葉かけやタイミングをみながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	山北町健康福祉センターで開催された「ふれあいフェスタやまきた」で、日ごろから少しずつ製作した作品を利用者も参加して展示販売した。また飲酒、喫煙に関してもできる限り本人の希望に沿って対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、日用品の買い物等個別に対応している。ベランダが広いので、気候の良い時は、日光浴をしたり、お茶やおしゃべりを楽しんだり、外出が難しい方も屋内に閉じこもらないよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さは十分理解しており居室の鍵をかけるかけないは本人の意思に任せているが、利用者の安全確保のため、やむをえずフロアの出入り口(階段に通じるため)は施錠している。	○	フロアの出入り口の施錠については、職員の利用者への見守りの強化を含め、一層の工夫や方法を検討されることを期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に届けを出して避難訓練を行っている。この訓練は防災業者に依頼して、年2回昼、夜を想定して実施している。また、施設長、管理者が地元の消防団で活動しているため地域との連携や協力も得られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや希望を取り入れつつ、野菜を多く摂取できるよう献立を工夫している。普通食、きざみ食等嚥下状態にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階ホーム入り口に利用者と職員の共同作品（赤やオレンジの布を巻いて作ったバラの花でホーム名が装飾されている。）が飾られている。リビングをはじめ共用の空間はすべてゆったりとしている。時おり聞こえる御殿場線の電車の音もどこかで心地よい雰囲気を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の入居前からの環境に配慮し、畳の居室になっている。タンスやテレビ、椅子等馴染みの物が置かれ、ベッドや布団も好みや状態に応じて利用者が選択している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	バーデンライフ山北
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山北町
記入者名 (管理者)	施設長 湯川嘉一
記入日	平成19年12月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のイベントや学校・幼稚園との交流会等に積極的に参加するほか、散歩、買物等に出かけ、地域の見慣れた場所、人々等と出会う機会をつくっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	交替勤務で全員が揃うことがないため、職員会議を月2回開催し、理念・運営方針等々を話し合う機会をもうけ、共有・実践に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の中で暮らす姿を中心にした広報誌を発行し、家族、自治会、民生委員、隣接医院等々に配布するほか、主要行事に家族や近隣住民を招待したりして理解を得よう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中等において、旧知の人も多く、気軽に声を掛けてもらったり、納涼祭においては、自治会に回覧を回していただき参加いただくよう働きかけている。また、知り合いの面会など自由にいつでも訪問いただけるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、納涼祭等自治会の行事に積極的に参加し、交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として、居宅介護支援、デイサービスセンターを併設しているので、それらの事業活動を通して地域の方の相談等に応じており、その中でグループホーム職員も関連事項の支援に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は、全職員に自己評価表に取り組むようにすると共に、評価結果については職員会議で話し合い、全員で具体的な改善方法を話し合って取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、年間の事業報告並びに評価結果への取り組み状況等の報告をしているほか、納涼祭ほかの行事を視察していただき、意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度実績報告を行い、担当者にも口頭で報告するほか、町とは、様々な形で連携を保っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については外部研修を受け、職員会議で内部研修としてその結果を報告しているが、現在の入居者にそれらを必要としている方はいないので特に活用の機会はない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、機会あるごとに職員間で話し合い、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明・納得はもちろんのこと、解約時においても、その理由等を十分説明し、納得いく退去先等が確定してから解約するようにして、家族等の不安解消に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員等は、日ごろの対話を通して意見、不満等を聞くよう努め、また、家族等のほかお話ボランティア等の外部の人と積極的に接触していただき、不満等を言える機会を設けている。その結果については、記録に残し、職員会議にかけて活かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の月初めに担当職員からの「おたより」を発送しているほか、殆んど家族等が月1回以上面会に見えるので、その際、日ごろの様子を伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には、できる限り施設に来ていただく機会を設けるようにして、その意見等を聞く機会とするほか、行政等関係機関の電話番号を掲示したり、行事案内のはがきに意見欄を設け、意見、不満を言える機会としている。現在までのところ特に苦情等はない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月2回開催し、意見、提案を促しているほか、いつでも受ける体制をとり、その意見等については、調整会議で運営者と協議するなどして、できる限り業務に反映するようにしている。また、年に1～2度個人面談を行って会議等では言えないことを聞く機会としている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の要望等に対する職員体制としては、いつでも対応できるよう管理者、介護職員のほか、事務職員を含め施設全体で勤務調整して対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職希望者に対しては慰留に努め最小限に抑え、それでも離職者等があった場合は、残る職員でカバーすると共に、新職員には研修期間を長く取り、利用者に時間をかけて慣れさせていただくようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画等は立ててないが、内部研修は随時行っており、外部研修は関係機関からの通知のたびに回覧し、自由参加、業務命令による参加させている。新採用者には、7日程度の研修期間を設け、計画的研修をしている。	○	段階別年間研修計画を作成して実施したいが現在のところ実現していない。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研修会に出席したり、近隣行政が主催したシニアキャンプや同業者の納涼祭に参加したりして交流したが、定期的、組織的な活動がない。	○	今後、地域内のグループホームでの定期的に交流し、勉強会等の機会を設けることを検討できればと願っている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員には、常日頃から悩みごと等について相談をするよう促すほか、職員会議や年に2回程度の個人面談を実施して相談しやすい体制をとっている。また相談等があった場合は、できる限り解消する方策、環境づくりに努めている。	○	努力はしているが、ストレスや悩みは職員個々で異なり、全ての解消には至っていないので、さらに研究する必要がある。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議、個人面談等で職員個々の努力や実績に対する評価を伝えたり、感謝・激励すると共に向上心の大切さを確認し合い、働き甲斐のある職場づくりを目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時はもちろんのこと、利用直前に本人・家族・ケアマネ、施設で面談を行い、本人の心身の状況、生活環境の把握と共に、設問のことについては特に詳細に把握するよう努めている。また、その結果を職員会議等で話し合い、全職員が受け止めるようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の意向把握については、前項の面談と同時に、また必要ある場合はさらに別の機会を設けて聴くようにするなど、特に重視して実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、必要があれば併設の居宅支援職員にも立ち合わせ、入居までの最善の支援方法を検討するなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当初お試的な利用にしたり、家族等に長時間いてもらったりして、とにかく本人に合わせ自然に生活ができ、馴染んでいくよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中に変化を設けるようにして共通話題づくりに努め、それを大切に、対話の中で共感したり、新たな発見をしたり、学びあったりしているが、月日を追うごとに本人が体力、気力の衰えがちになり、介護に頼る傾向が強くなっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、お便りで近況報告を行うほか、かなり頻回に面会に来ていただき、一緒に過ごす時間を持ってもらうとともに、主な行事の際には全員の家族がそろって食事やゲームを共にするなど、一緒に本人を支える関係ができています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にはお便りで近況報告を行い、状況をよく知っていただいた上で、面会に来ていただいたり、主な行事の際には全員の家族がそろって食事やゲームを共にしていただくなどして、本人と家族との良い関係を保っていただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この部分では、基本的には家族にお願いしているが、施設としては、近所の方の面会等の受け入れや、なじみの場所への外出、あるいは従来からの「手話教室、体操教室」への参加の送迎等を支援してきた。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係把握には、全職員が注視するようにして、お互いの足りないところを職員がカバーして良い関係を保って会話、ゲーム等の日常生活がが進むようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後においても、特養入所等においては面会に行ったり、本人や家族が求める相談、希望等があれば、積極的に対応するようにしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向については、常々その把握に努め、日々の生活は本人の意思を尊重するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴等については、本人や家族に聞き、全職員が共有するようにして、できる限り活かすよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアの一番の基本であり、その日の会話、動作、食事の摂取量等々から職員一人ひとりが把握に努めると共に、朝夕の職員の引継ぎで話し合われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成においては、ケアマネと各利用者を担当する介護職とが連携をとりながら、日々の状況を観察等すると共に、他の職員意見を取り入れると共に家族等と話し合っ作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しはもちろん、現状に即した計画作成の必要性を意識して対応しているが、現在までのところ、定期以外の計画見直しをするほどの事例がない、		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有には力を入れており、個別記録はもちろんのこと、朝夕の引継ぎで日々の様子等々を共有するようにして、変化については会議で検討して実践・計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスとの交流、同法人内施設との交流や温泉浴を実施しているほか、家族の状況等によっては協力病院以外の受診等も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在までのところ、表記の機関の中で警察と連携をとったことはないが、それ以外のところについては、何らかの繋がりを持ち、協力いただいて支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族等の希望があれば他のサービス利用も支援していく用意はあるが、特に希望等がないのが現状である。ただ、施設の事業として週1回程度、施設内のデイサービスに合流している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	前項と同様、希望あるいは必要とされれば支援していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療については、協力医療機関と連携して行っているが、本人、家族等の希望により、かかりつけ医の医療も受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する受診先の決定等については、家族と相談・協力して行っているほか、その受診先とは必ず連携を保つようにしていつでも相談等できる体制を取っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設のデイサービス所属看護職との契約により、週1度のバイタルチェック等日常の健康管理を行っているほか、いつでも声かけ、相談できる体制を整え支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医院が施設の隣接地にあり、そこに入院したときは、職員が毎日のように通っており、看護師等に様子を聞くようにし、情報交換、相談は密にしている。また、他の病院に入院した場合は、家族と連携して病院と連絡を取るようにし情報入手に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、施設の性格上、まず、会議で共同生活が可能かどうかを検討し、その結論を家族、医療と話し合っ て判断することになるが、いずれにしても、家族等、医療の全 員が納得する方針を探して対応している。。	○	終末期のあり方として、「看取り」については将来に向けてのグループホームの懸案事項と思っており、今後検討する必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化したときに、医療、特養への転居を含めチームとしての支援に取り組んでおり、終末期対応は今のところ考えていない。	○	終末期のあり方として、「看取り」については将来に向けてのグループホームの懸案事項と思っており、今後検討する必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住みについては、特に家族等と十分に話し合っ て実行すると共に、その後についても必要なケアは行うようにし て、ダメージを最小限にするよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に言葉かけ等には気をつけるよう、常々職員間で話し合い実践するよう努めている。また、個人情報の取扱については、関係機関内だけで必要最小限にとどめるよう管理の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の中には、自らの意思や希望を表明することについての意思疎通が難しい方もいられるが、最大限引き出せるよう努力して行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日のスケジュールは決めてあるが、本人の希望を最大限取り入れ、一つ一つの行動については、本人の意思を確かめるよう声掛けを行い、自分の意思で行動していただけるようにしている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の室内外の服装等については、可能な限り本人の意思を尊重しながら整えている。また、理・美容については、施設に来るボランティアにお願いし本人の好む髪型にしているが、希望者は外部の店に行っている方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや希望を聞きながら、メニューに取り入れている。また、食事の準備等については、できる範囲で下ごしらえなどを一緒にするようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコについては、家族の要望等から多少制限しながら、ほぼ自由に楽しんでもらっている。その他は、本人の意思に沿うよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護の立場からはリハパン使用の必要がある方であっても、本人の拒否等の意思を尊重し、排泄パターンに合わせた定時誘導で対応しているが、まだ十分でない面がある。	○	一人ひとりの排泄パターンや習慣を完全に把握することは難しいが、今後とも全職員で努力していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の基本は決めてあり、その中で曜日については希望に沿うようにしているが、希望の時間については、自立者でないと現状では難しいと考える。	○	入居者に希望通りの入浴を楽しんでいただけるよう努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息、睡眠、起床時間等については、全て本人の自由意思に基づいて行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内での役割等については、できる所はできる限り役割を持って生活していただくように努めており、楽しみごと、気晴らしに関してもできる限り本人の希望に沿って支援するようにしている。	○	一人ひとりの楽しみごと、気晴らしの類は各人様々で、自己表現のできない方が多い中では、その把握・実行共に完全にできているとは言いがたい面があり、日ごろからの努力は怠らないようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて所持しており、買物等には職員が同行して実施している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望による散歩、買物等については、職員が同行してできる限り支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として利用者の希望に沿った所へ外出する機会を設けるほか、個別の希望については買物等できる範囲で支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等については、いつでも本人の希望に応じるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	すべての訪問者について、いつでも応じているほか、施設内では本人と自由に気兼ねなく過ごせるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準は理解しており、職員間でも話し合って身体拘束のないケアに取り組んでいるが、介護上どうしても必要な場合は、家族の了解をとり、かつ記録をとって行ったことがある。	○	どんな状況においても拘束ゼロで介護できるようにするよう職員間で話し合っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害は十分理解しており、居室の鍵は本人の意思に任せているが、現在の利用者の状況から止むを得ず、フロアの鍵(階段に通じる鍵)は施錠している。	○	今後とも完全に鍵をかけないケアの方法を検討していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状況把握や安全確認には最大限の配慮をしている。このため、現段階では前項の鍵の施錠は必要と考えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	キッチン等の共用スペースについては、危険な物品は全て職員の管理下においているが、個室については、その人の状況によって判断している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、常に職員間で話し合う題材として意識し防止に努めている。ちょっとした事故、ヒヤリハット等の記録をとり、職員会議で検討するなど全職員で取り組み業務に取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修として、人口蘇生、吸引、酸素ボンベの使用訓練を単発的に行ったり、急変時や事故発生時のマニュアルを作成し職員間で共有している。	○	応急手当等実施していない訓練を行うのはもちろん、全体の訓練を定期的に行っていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜を想定した避難訓練を年に各1回ずつ実施している。地域の協力については、自治会を通していろいろな面で連携を保っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	必要の都度、家族に説明し理解を得るよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員一人ひとりが細やかに声かけをして、常に体調変化に気付くようにしている。また、利用者によってはバイタルチェックの時間を決めて対応している。夜勤中の職員間の情報共有・対応のための連絡体制も繰り返し確認し合っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の説明書をファイルしてあり、職員は複数で確認しながら服薬支援をし、かつ吹く訳語の観察を怠らないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	メニューや水分補給(特に牛乳)で便秘予防をすると共に、散歩(必要なときは老化を歩くなど)、体操等を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをすると共に夜間に入れ歯の消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態等一人ひとりに合った食生活を大切に、野菜を多く摂っていただくよう工夫している。また食事・水分量の摂取量をチェックしながら利用者に応じた支援に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を家族の承諾の下に行ったり、台所関係を中心に衛生管理チェックを怠らないようにするほか、予防や対策についてマニュアルを作成し、全職員が必要に応じて目を通すようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理は、チェック表を作成して日々管理しており、食材についても安全管理には十分配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物全体の雰囲気も親しみやすい外観となっており、玄関にはボランティアの方が活かしてくれている生け花が飾られ、掃除も行き届いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状においては不快な音や光はない。食堂等の共用空間には常に季節の花や飾り等を置くようにし、また、楽しい行事の際の写真等を貼るなど、できる限り工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングには、畳の部分があるほか、テーブル、ソファが適度に配置され、思い思いに自由に過ごせるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に配置する家具、レイアウト等は本人や家族の好みや考えによって自由に配置していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇を使用しており、1日1回以上窓を開けての換気とこまめに冷暖房による温度調節をするようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、廊下、トイレの広さ等々に十分配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人のペースに合わせ、できるだけ自立に向けたケアに努めている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにテーブル、ベンチ、パラソルを配置し、自由に休息等するスペースがあり、裏庭には畑があり、種を植えたり収穫を楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の
		☐	②利用者の2/3くらいの
		☐	③利用者の1/3くらいの
		☐	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある
		☐	②数日に1回程度ある
		☐	③たまにある
		☐	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐	①ほぼ全ての家族と
		☐	②家族の2/3くらいと
		☐	③家族の1/3くらいと
		☐	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	①ほぼ毎日のように
		☐	②数日に1回程度
		☐	③たまに
		☐	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	①大いに増えている
		☐	②少しずつ増えている
		☐	③あまり増えていない
		☐	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	☐	①ほぼ全ての職員が
		☐	②職員の2/3くらいが
		☐	③職員の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての家族等が
		☐	②家族等の2/3くらいが
		☐	③家族等の1/3くらいが
		☐	④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当デイサービスの特徴の一つである源泉を運での温泉施設を利用して、月に1度以上温泉浴を楽しんでいただいている。
- ・施設の裏に小さな畑があり、職員と一緒に季節の野菜作りをしたり、収穫物を食卓に並べて楽しく食べていただいている。
- ・季節感や地域の様子を味わっていただくため、花見、納涼祭、紅葉狩り、クリスマス、初詣等々を中心に、地域や学校等の行事、催し物等にも積極的に参加し、できる限り外出の機会を設けるようにしている。
- ・家族と協働で絵介護する事をモットーに、家族に「お便り・広報誌」を送付したり、事ある毎に電話連絡をとって施設内での状況をお知らせするとともに、敬老会、クリスマス会等家族参加の行事を実施している。